ボーイズリーグ

BOYS LEAGUE
日本少年野球連盟

来月DeNA杯へ梶原監督「困難あっても一丸で」

横浜青葉の団結力!!

コロナ禍乗り越える!!

神奈川県支部2チーム紹介

新型コロナ感染拡大のため各チームには練習時間の短縮、密を防ぐためのグループ分け、マスク着用など予防対策が求められている。それに加えて自由に使える専用グラウンドを持たないチームは、練習場所の確保や移動、時間の制限など負担が重なる。球場を借りて今年初めてグラウンドでの練習を行った創部41年目の横浜青葉ボーイズ、短時間の練習で課題克服を図る麻生ボーイズ。神奈川県支部中学生2チームを紹介する。

今年初グラウンド 捕球ミス目立った

キャッチボールの時から大きな掛け声が響く。選手たちは気合十分。だが、内野ノックでは捕球ミスが目立った。それもそのはず、グラウンドでの練習は「1か月半ぶり」だという。

横浜青葉は県内の中学硬式リーグ対抗戦・DeNA杯（3月13、14日開催予定）に湘南、相模とともにボーイズ代表として出場する。初めて立つ大舞台に向けて早い仕上がりを目指しているが、簡単ではなさそうだ。「コロナ禍で公共のグラウンドが借りにくくなり、室内でのトレーニングが続いていました。平日の活動も今はやめている。そろって練習する時間が減った分は自宅での自主トレなど知恵と工夫で補ってほしい」と梶原政与監督（54）は選手の自覚に期待する。

リーダーとして指揮官が紹介したのは、捕手で4番の山田士主将と打線の切り込み隊長・手塚。山田士は、（昨年11月の）春季全国代表決定戦で湘南に逆転負けした反省から「最後まで集中して、心の隙を相手に見せないチームにする」と誓う。手塚は「球数を投げさせ、ピッチャーの特徴を後ろのバッターと共有したい。1打席目から塁に出て流れをつくる」と張り切っている。躍進の立役者である投手陣は1年生左腕・津島を筆頭に右は桧原、左は森下とそろい実力伯仲。津島は「緊張感の中でも力を出せるようにしたい。タイミングを外す巧みなピッチングをします」と強打者との対戦を楽しむつもりだ。

もともと地域の子ども会から発展した家族的なチームだけに、まとまりがいい。15人のコーチ陣は全員OBだ。梶原監督は「三位（選手、保護者、スタッフ）一体がチームのモットー。困難があっても一丸で乗り越えます」と団結力を強調した。

今年初の球場練習でダッシュで気合を入れた横浜青葉の選手たち

DeNA杯初出場の横浜青葉ボーイズ

横浜青葉

選手名	学年
田塚士主	❷
山崎悠	❷
手原智	❷
籾山桧	❷
宮崎佳	❷
桧原拓	❷
吉保泰	❷
森下友	❷
関口幹	❷
伊奈大	❷
岩渕翔	❷
石井悠	❷
川口翔	❷
小林太	❷
西城郎	❷
白木聖	❷
杉山拓	❷
鶴巻太	❷
林亮	❷
山口三	❷
加茂龍	❷
津島秀	❷
山田彩	❷
福本奈	❷
塚藤央	❷
齋我一	❷
曽宿朗	❷
三々木	❷
佐康介	❷
山崎夏	❷
山田政	❷
村井之	❷
澤尾遼	❷
松浪凌	❷

笑顔MVP!

宮崎 桧成
横浜青葉ボーイズ

「笑顔MVP」は選手がグラウンドで見せた最高の表情を紹介しています。次回はキミかも?

2死満塁で内野内側の塁審に打球直撃…2者生還も

▶▶ フェア地域で塁審に打球が当たった場合、野手を通過した後のフェアボールならボールインプレー、前ならボールデッドになる（写真と原稿は関係ありません）

こんな時こそ ルールをしっかり学ぼう

コロナ禍で在宅時間が長くなった子どもたちにルールの再確認を勧める連載企画。実際にあった例を問題にして、東日本ブロックの審判が答える。最終回は「審判に打球が当たったら」（構成・芝野栄一）

【問題】プロ野球で実際に起こった例です。2死満塁で打席には4番の強打者。ツーアウトですから、当然各内野手は通常、または深めの守備位置（一、二塁と二、三塁を結ぶラインから外野寄り）です。ところが、打球が内野の内側、二塁ベース近くにいた塁審に当たり、センター方向に転がりました。三塁走者に続いて二塁走者も生還。しかし、その前に球審は「ボールデッド」を宣告し、1点しか認めませんでした。攻撃側監督の猛抗議も受け付けられず、打者に一塁を与え、一、二塁の走者をそれぞれ進ませた2死満塁から試合再開。判定は正しかったのでしょうか?

【回答】判定は間違っていません。2015年にNPBのセ・パ交流戦であったケースですが、当時このルールを知らない人が多くて話題になりました。

公認野球規則5・06「走者」の項の「ボールデッド」で、そうなる場合の一つとして「内野手（投手を含む）に触れていないフェアボールが、フェア地域で走者または審判員に触れた場合、あるいは内野手（投手を除く）を通過していないフェアボールが、審判員に触れた場合」とあります。さらに続けて「打者が走者となったために、塁を明け渡す義務が生じ

「ボールデッド」